

へべれけ

浜田 道雄

春がやってくるど気持ちウキウキしてきます。花も咲くので、ちょっと遠出して「花見酒だ!」と浮かれる季節です。そんな気分を酒を飲み、泥酔して終電を逃してしまったり、乗ってはみたものの寝込んで終点まで行ってしまったり、なんて話もよく聞きますね。ところで人が酒を飲んで泥酔し前後不覚になってしまうことを「へべれけになる」といいます。不思議な語感をもつ言葉ですが、なぜ「へべれけ」っていうのでしょうか?

調べてみたら、意外なことがわかりました。なんと「へべれけ」はギリシヤ語由来の言葉なんだそうです。

むかしギリシヤの神々がまだ現役だったころ、その王であるゼウスと美人で知られたヘーラーとの間にヘーバーという娘がいました。母親似の娘は間違いない超美人で、男を酒を勧めるのが上手かったそうです。それでヘーバーのお酌で酒を飲むと、ギリシヤの神々はみな泥酔して、前後不覚になってしまいました。以来泥酔することを「ヘーバーのお酌 (Heberryk) 」というようになり、これが日本に伝わって「へべれけ」になったというのです。

ヘーバーがなぜ酒を勧めるのが上手かったかって? 神話はなにも語っていませんから、わかりません。たぶん若くて美人のヘーバーにはギリシヤの神々はみなチヨツカイを出したんでしょう。ギリシヤの男神なんてどれも好色ですから。ヘーバーもそんな男の誘惑から身を守るために、相手を泥酔させて逃げる術を覚えたのかもしれない。

さてこの話を信じるかどうか、それはあなた次第です。どこかで美人を見つけて一緒に酒を飲み、泥酔してから決めてください。でも発言には気をつけてください。前後不覚で「おめえ、ヘーバーみたいな美人じゃねえな」なんていったら、間違いなくセクハラです。とんでもないことになりますよ。

蛇足。「へべれけ」がギリシヤ語由来なら、ヨーロッパ語にも似た言葉があるはずだと調べてみました。でも見つかりませんでした。

)